

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者の方を招いてのADL教室を毎月1回実地している。 ・地域の公民館を利用し、年に1回認知症についての講演会を実施している。 ・町内会、地域の他施設にて、グループホームの説明会を実施している。 ・地域の方との防災訓練を実施している。 	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・久米の家独自の”ゆっくり、楽しく、一緒に、穏やか”をケアに反映している。又、玄関、事務所など常に目につく場所に掲示している。 ・ケアに生かすように、定例会で職員で話合っている。 	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>地域の方、ご家族様と共に力を合わせて、年に1回夏祭りを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の公民館を利用し、年に1回認知症についての講演会を実施している。 ・町内会、地域の他施設にて、グループホームの説明会を実施している。 	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>町内会に加入し、回覧板をまわすなど、ご近所の方とつながりを持っている。</p> <p>利用者さんが外で洗濯物を干しておられると、声を掛けて下さり、天気の話など世間話をされている。新米、畑で出来た野菜など届けて下さる。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の老人会に参加している。 ・町内会の運動会に参加している。 ・公民館の文化祭に参加している。 ・高齢者福祉大会に参加している。 ・地域の高校生がボランティアに来てくれる。 ・町内会、自治会の行事を通して、地域活動に参加している。 	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の高齢者を招いて、介護予防教室を月に1回開催している。折りにふれ介護相談も行っている。 ・独居高齢者、高齢者夫婦の所へ、季節の手作りの食べ物(かしわ餅など)を届けている。 ・地域の高齢者の発表の場に事業所の多目的ホールを提供している。(コーラス・フラダンス)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価を職員全員で行い、サービスの質の向上に努めている。 ・全職員から意見が聞くようにしている。外部評価の結果は、職員会議の時報告し、改善に向けて話あっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスについての会議はしているが、事業所に遠慮してか、なかなか意見がでない。取り組み状況については、報告をしている。	○	・今後は、自己評価、外部評価の結果を報告し、経過もみて頂く。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市役所に行き、事業所では判断が出来ない事、解らない事など逐次相談している。(生活保護、入所状況)		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・管理者がパンフレットを使って、職員に説明し、制度の理解に努めている。	○	・現在グループホームでの活用はないが、今後も職員間で勉強会を開いて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部の研修に参加し、研修報告を通して他職員の理解に努めている。又、職員会議で高齢者虐待防止関連法について、話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・料金改正前は、家族会で御家族様に、説明し了解を得ている。家族会に参加出来ない家族様には、後日面会時を利用して、説明し了解を得ている。 契約時に事業所が出来る事、出来ない事についても、説明し了解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・半分以上の利用者様が、ご自分の意見をはっきり言われる。又、ご自分の意見を言われぬ利用者の方には、表情や行動から読み取るようにしている。	○ ・介護相談員の派遣を考えて行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・請求書、領収書を送付する時、ご利用者様の様子もお知らせしている。また、日々その都度、御家族様に連絡している。 ・家族会、面会時職員の異動を伝えている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・契約時に国保連や市役所の苦情係の説明、又重要事項にも苦情係の事がうたっている。(契約時に説明もしている) ・事業所に苦情相談係をもうけ、家族会や面会時などで紹介している。又玄関に意見ポストを設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定例会時、職員の疑問に関して議題を出して、月に2回管理者を交えて、話合っている。又、管理者からも職員に投げかけている。 介護リーダーが職員の意見を聞き、代表で管理者に聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者の状況に応じて、人員、時間帯も柔軟な対応が出来るように、話し合っている。	○ ・終末期など、2人夜勤体制など柔軟な体制をとって行きたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・開所当時から職員の何人かおり、馴染みの職員によるケアを心掛けている。新しい職員が入る場合も利用者様に紹介している。	○ ・利用者様のこだわりなど、個別援助ケアに詳しく記入し、利用者様に迷惑が掛らないようにして行きたい。 (誰がしても同じケアをして行きたい)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の経験年数、能力に応じて、施設外研修を計画的に取り組めるようにしている。研修報告は、毎月の定例会を発表の場とし、職員全員が研修内容を把握するようにしている。また、研修のお知らせをおこない、職員の興味のある研修は、自発的な学びの気持ちにつなげていっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・松江、出雲のグループホーム同士で、夏祭り、施設内研修会で、お互いの施設を行き来し、交流作りや質の向上に役立てている。 ・今年の春に近隣のグループホームと救急救命法、リハビリテーションの合同の施設内研修を実施している。 ・記録の仕方についても、他グループホームの方と意見交換をしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・勤務時間中にも、気分転換できる休憩室を確保している。	○ ・スーパーバイザーの導入について、考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・理事長自ら現場に入って、職員の状況を把握している。その時の職員の能力に合った、課題を投げかけ、職員に現状を振るかえる機会をあたえている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居前に面談に行き、関係づくりに努めている。また、見学に来て頂き、ご本人に会って思いを聞くようにしている。 ・利用者様に受け入れて頂けるように、心掛けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・家族の思いをくみ取るようにしている。その思いを何処まで実現に近づけられるか、何処までホームが支援出来るかを話し合い、伝えて言っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・グループホームが出来る役割と範囲を伝え、相談の時点で必要な柔軟な対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用開始前に、ホームに見学に来て頂き、職員との関係づくりに努めている。入居されてからも、ご家族様やそれまでの関係者に面会に来て頂けるように配慮している。(見学やお試しを実施している)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・人生の先輩として、生活の知恵をアドバイスして頂いている。嬉しい時は一緒に喜び、悲しい時寂しい時は、寄り添うように職員一同が心掛けている。 ・戦時中の話や花の育て方、料理方法などを教えて頂いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・こまめにご家族様と連絡を取り合い、ご家族様と共に考えるようにしている。 ・利用者様の出来る力、良い面をお伝えする事により、ご家族様が利用者様に対する態度がいい方に変わって行ったケースもある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様とご家族様が折り合いをつけながら、共に進んで行かれるのを支援している。 面会時、居室にてお茶を飲まれながら、談笑されている。	○	・利用者様、ご家族様との三者面談をして行きたい。 ・利用者様とご家族様が気軽に、喫茶店に出掛けられる支援をして行きたい。 ・利用者様がご家族様へ電話で連絡しておられる。宅配が届くとお礼の電話をしておられる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が住んでおられた、地域の友人、知人の方が面会に来られる。 ・利用者様が住んでおられた地域にドライブに行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者様同士の関係に配慮しているが、落ち着かない事もあり、記録に残し、どうしたらいいか定例会でアイディアを出し合っている。 ・利用者様同士の相性に配慮しながら、テーブルの座られる場所も考えている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退居された利用者様のご家族様がホームに来られたり、スーパーで出会うと利用者様の状況を教えて下さる。 ・年賀状のやり取りがあり、講演会、夏祭りに遊びに来られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・センター方式でその人らしい暮らしに近づけるためには、何が 必要で、何をどうしたら、近づくのか、定例会で話し合っている。 ・利用者様の声を大切にしている。 ・定例会で話し合い、判断がつかない時は、「ご本人ならどうか」と利用者様の気持ちになるきって、話し合っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式のシートをご家族様にもご協力して頂き、馴染みの暮らし方の情報収集に努め、職員で情報の共有をしている。 ・利用者様のホームでの掃除風景を伝えると、ご家族様から「家にいるみたい」とうれしい声も聞かれる。		
35	○暮らしの現状の把握	何でも頼んで頂き、出来る事は継続して支援し、出来ない事にはこだわらない。センター方式の「出来ること、出来ないこと」シートと「私のわかること、わからない事」シートを使用し、出来る力を大切にしている。 出来る人という視点を持ち、とにかくやって頂く事から初めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ご利用者様の意向(普段の会話からも)と、ご家族様の意向を聞き、職員全員で話し合いアイデアを出している。 ・利用者様の個々の出来る力に応じた役割づくりをしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・ご家族様に連絡し、又日々の記録から利用者様の状況の変化について、月に2回のカンファレンスで話し合い、見直しを行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケアプランの計画をチェック表におとし、出来なかった事をどうして出来なかったを記録に残し、その背景を職員で話し合っている。 ・利用者様のその時その時、言われた言葉に真意があると考え、記録に残すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・病院受診の付き添いを行っている。 ・利用者様の希望により、自宅付近をドライブする事もある。 ・ご利用者様の気分により、併設の小規模多機能型施設で過ごされる事がある。 ・子になり、孫になり、友人になりと職員が役割を柔軟に演じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域の交番、消防署と連携を取り合っている。交番の方もホームに立ち寄られる事で、ご利用者様の安心につながっている。地域の音楽をしておられる方が、音楽の会をホームでされ、ご利用者様の楽しみにつながっている。 ・高校生のお話ボランティアと楽しい時間をすごされている。「ご飯は？食べていきなさいよ」といい関係がきづけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、対象者のご利用者様はいないが、事業所として支援して行く気持ちはある。	○	・今後他のサービスの活用も視野に入れながら、定例会で話し合っていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で地域包括支援センターの方と、連携しているが、ホームのご利用者様のケースにつながった件はない。	○	・今後の事も考えながら、地域包括支援センターと今まで以上に連絡を取り合っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所の協力医の通院、往診で対応している。ご利用者様の中には、前からのかかりつけ医での医療を継続して受けておられる方がおられ、ご家族様と協力して通院介助を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・定例会で話に出た認知症に対する疑問を、管理者を通して相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・併設の小規模多機能事業所に看護師がいる。以前グループホームに勤務しており、ご利用者様の事はよく知っている。現在も定期的に状態を報告、連絡している。	○	・訪問看護ステーションと契約を考えている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・ご利用者様が不安でないように、頻繁に入院先に顔を出すようにしている。又ご家族様病院関係者、とも連絡を密に取り、相談にも応じている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・事業所で「重度化した場合における対応に係る指針」を説明すると共に、終末期ケアについての希望をご利用者様、ご家族様と話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族会で事業所の終末期のあり方を説明している。ご利用者様の最後のステージ、事業所で心をひとつにして、取り組んで行きたい。	○	・終末期ケアの経験者の職員を中心として、事業所で終末期ケアの勉強会を計画している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・以前在宅復帰されたご利用者様がおられた。ご家族様、居宅のケアマネジャーの方と密に連絡を取り合い、ケアの工夫、その方のこだわりを詳しくつたえ、暮らしの継続に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員の入社時に管理者よりプライバシーの重要性について、話をしてもらっている。 ・ご利用者の個人情報は、鍵付きの書棚に管理してある。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・ご利用者様に決定をして頂くように支援している。お手伝いの場面など、お願いした方が心よくなる事もあり、その方に合わせて柔軟な対応をしている。 ・ご利用者様によっては、希望や選択に迷われる方がおられ、自己決定が難しい事がある。職員がアンテナをはり、日頃の会話等からご利用者様の意思をくみ取るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・事業所の理念のひとつである”ゆっくり”をモットーに、ご利用者様の体調に合わせ、穏やかな1日になるように努めている。 ・買い物好きな方は、職員と一緒に買い物に行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・「ここ、この髪しろくなって。」と日頃の会話からご利用者様ご本人の希望、意向をご家族様に伝えている。外泊時馴染みの美容院に行かれたりされる。 ・入浴時洋服は、ご利用者様に選んで頂くようにしている。車椅子使用の利用者様も車椅子でタンスの前までいかれ、ご自分の好みの洋服を選ばれるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に何が出来るのかアセスメントし、個々の出来る力に焦点をあてて、声掛けしている。 (センター方式のできる事、できない事シート使用している)	○ ・「調理全体を任せてみたい」を目標にして、どういうふう支援していったらいいか、考えていきたい。 ・「ひとつ見本お願いね」と見本があると、最後までされ、配膳もして下さる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・日常の会話やセンター方式のアセスメントシートから、ご利用者様の嗜好を職員全員がし知り、配慮している。また、ご家族様と情報交換をしている。 ・「塩豆お願いね。」と買い物に行くとき、大好きな塩豆頼まれる。 ・食事が入らないとき、ご利用者様の昔からの好物を用意すると	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄パターン、習慣を活かして適時に声掛け対応をしている。又職員間でも、声掛けが重複しないように、声を掛け合っている。 ・ご利用者様の中には、リハビリパンツを使用する事で、ご本人の安心につながったケースもある。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・利用者様の希望や状況に応じて、入浴に誘っている。利用者様と職員の相性も配慮している。	○	・「空いてる？」と夕食後ご自分から入浴を希望され入られる。 ・目で楽しめる入浴を支援したい(柚子湯、菖蒲湯)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・不眠の方にも、お茶やお話で気分をかえ、入眠につなげている。 お昼寝の習慣のない方は、ホールで過ごされている。 ・「一緒に寝てくれる？」と添い寝を希望される利用者様には、添い寝をして安心につなげている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・できる力に焦点をあてている。お手伝いして頂いた事には、感謝の気持ちを表し、役割を通して感謝される生活を目指している。 ・「何か手伝うことない？」と職員に声を掛けてくださる。 ・餅つき、笹巻き、いが餅作り、昔話をしながら楽しんでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物に職員と一緒にいき、ご自分のお金で欲しいものを買われている。又、職員の变りにレジでお金を払って頂くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は、外で洗濯物を干したり、お茶を飲んだりしている。 ご利用者様の気分に合わせ、ドライブに誘ったりしている。	○	・あらたまった外出ではなく、気軽にお茶を喫茶店に飲みに行ける支援をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・現在数人のご利用者様は、ご家族様と外出を楽しんでおられる。	○	・日常の会話から、ご利用者様の行きたい所を知り、あきらめずどうしたら行けるのか、職員で考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を持っておられる利用者様がおられ、ご家族様と連絡を取り合っておられる。 ・ご家族様から贈りものが届いた時お礼の電話をしておられる。 ・「ちょっと、紙とペン貸し。」とご家族様に手紙を書いておられる		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・居室でお茶をお茶を飲まれながら、談笑されている。	○	・面会に来られた方と、一緒に外出出来る支援をして行きたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束のケースはない。現職員、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解している。	○	・新入社員研修に取り入れていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・夕食後まで、玄関は開けっ放しであり、自由に入出入りが出来るようにしている。 ・ご利用様が洗濯物が乾いたかを確認しにいられたり、気軽に出掛けておられる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は、居室近くのホールにいる事多く、24時間を通して利用者様の安全に配慮している。昼寝の時にも、職員で声を掛け合って、巡視をしている。夜間は、2時間ごとの巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・洗剤などは、棚に閉まり職員が管理している。包丁は、台所に閉まってあるが、ご利用者様から要望があれば、職員見守りのもと使っておられる。 ・「針ある？」とご利用様が縫い物をされる時など、必要に応じて貸し出ししている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・職員でアセスメントをし、個別にベット柵の位置をかえたりと工夫している。ヒヤリハットから、職員間で話し合い事故の防止に役立っている。 ・日中は、日勤職員が薬を出し、遅番職員が確認し、利用者様にわたす時は、利用者様に日付と名前と何時に飲まれる薬かを声に出して確認し、お渡し又は介助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・今年の春に、施設内研修で、消防士の方より救急救命法の勉強を実施している。 急変時、事故時などマニュアルを作成している。	○	・新入社員研修に取り入れていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・地域住民の方の参加、協力を得ながら避難訓練を実施している。また、避難方法について、定例会時職員間で話し合っている。 法吉消防団、地域住民の方と日頃から連携を取り合っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・日頃からご利用者様の状況を伝えている。 ・家族会や面会時に面談の機会をもうけ、ご家族様と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間申し送り等で情報を共有している。体調の異変には、バイタル測定、看護師、管理者、主治医へ早急に連絡対応している。 (体調の変化を記録、業務日誌に残している)		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・ご利用者様の状態の変化を記録に残し、副作用の出現に努めている。処方箋がケースファイルにとじてあり、職員がいつでもみれるようにしている。疑問に思う事は、定例会で話し合い主治医に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・食物繊維を多くとりよせた、食事メニューに心掛けている。 腹部マッサージなどしているが、排便につながらない事がある。 ・1日1300～1500ccの水分摂取をして頂いている。 ・個々の排便パターンをつかみ、ご利用者様の苦痛がないように、トイレに座っていただく習慣を支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・チェック表で確認している。されない日は、記録に残しその時のご本人の言葉も一緒に記録し、どういう視点から支援していくか話し合い、介護計画につなげていっている。 ・口腔ケアの必要性は、職員一同知った上で、ご利用者様に毎食後声掛けをしている。できない事に対し支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・台所に「食事個別表」を貼り、そこに個々のご飯の量とか記入し、個別に配慮している。また、ご自分で食べられる事の支援をしている。 ・1日1300～1500ccの水分摂取をして頂いている。 ・1日1500カロリーの食事を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・マニュアルを作成している。 ・手洗い、うがい、手指消毒を徹底している。(職員自体も) ・適時の換気、1日2回のドアノブ、手すりの掃除をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理器具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・毎日買い物に行き、新鮮な材料を購入している。また、残りものを残さないように気を付けている。 ・フキンは、毎回ハイター消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・ご利用者様が履物をご自分で履けるように、備え付けの椅子がある。車椅子の方用にスロープがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・トイレに野の花を生けるようにしている。 ・お風呂場から見える、栗の木など、お風呂に入りながら、季節を肌で感じる事が出来る。 ・臭い、雑音、光など職員が気をつけ、早目に対応している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・憩いの場にテーブルと椅子、季節の花をおき、居心地のよい空間になるようにしている。	○	・憩いの場の活用。 ・ソファでご利用者様同士、くつろいで話あっておられる。 ・併設施設との渡り廊下にあるベンチも今後利用したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に使い慣れた物を持ってきて頂くように、ご家族様にお願いし、居心地のよさにつながるように配慮している。 (位牌、ご家族様との写真、馴染みの絵画、以前から使っておられた毛布、布団などを持ち込んでおられる)		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・換気には、職員一同注意して、こまめに行っている。 ホールの天井にファンをつけ、暖房、冷房の空気が循環するようになっている。また、居室に24時間換気が設置してある。 ・冬はトイレに暖房を置き、また浴室と脱衣場など温度差に配慮している。		
お				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ベットの高さは、ご利用者様個々に合わせている。 ・廊下の介助バーを使い、車椅子使用のご利用者様が、バーにつかまり、車椅子を進めご自分の力で廊下移動が出来る。 ・足の不自由な利用者様でも、洗濯物が干せるように、ホールの天井に紐をつるし、たこ足をご利用者様の高さに合わせ、洗濯物を干して頂いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・目印、表札を利用している。慣れられるまで、職員がさりげなく援助している。混乱や失敗になった原因を定例会で話し合い、原因を取り除くようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・テラスを活用して、日光浴などご利用者様の気分転換にもつながっている。外の鉢にある花を見ながら、ご利用者様同士が穏やかに話し合っている。	○	・菜園、ピクニック、育てた花に水遣りをご利用者様と一緒に楽しみながら、支援して行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

久米の家では、基本理念である”一緒に、楽しく、ゆっくり、おだやかに”を職員1人ひとりの心に刻み、日々の生活に取り入れています。また、「その人らしさ」を大切に、「その人らしさ」とは何かを職員一同で考えています。そして、「その人らしさ」とは、その方を知り、その人の思いを大切に、その人の生活全体を見る視点が土台になっていると考えています。利用者様も私達職員も同じ人間です。共に生き生きとし、共に支えあって、笑顔で楽しい毎日を久米の家で送っています。